

[普及事項]

新技術名：カルハードによるリンゴのビターピット発生抑制効果

(平成6～8年)

研究機関名 果樹試験場 環境部土壤肥料担当
担当者 佐藤善政・船山瑞樹

[要約]

リンゴのビターピット発生防止用カルシウム剤としてカルシウム液剤 カルハードの実用性が確認された。落花後から9月までの間に1000倍で3回以上散布することにより王林のビターピットの発生を抑制する。

[ねらい]

有機キレートカルシウム液剤カルハード(カルシウム11%、ホウ素1.5%、その他植物抽出成分含有)をリンゴのビターピット発生防止用カルシウム散布剤として普及する。

[技術の内容・特徴]

1. 材料及び方法

供試樹：「王林」/M.9/マルバ(成木)

処理方法：1処理区につき2～5樹を供試して、動力噴霧器で樹全体に十分量が付着するように散布した。展着剤としてアイヤーを5,000倍または10,000倍で加用した。

ビターピット発生率調査：10月下旬の収穫前に試験に供試した各樹について、全果を樹上調査した。

果実品質調査：10月下旬の収穫はじめに1樹から10～15果収穫して果重、硬度、果色(カラーチャート)、糖度、リンゴ酸を調査した。

2. 結果の概要

1) 1994年及び1995年は試験供試樹のビターピット発生率が5%未満で全体に低かったためカルハードの散布効果は判定できなかった。1996年はカルハード散布区のビターピット発生率が明らかに低く、平均で2.2～5.5%であったのに対して無散布区は19.0%であった。

2) 本カルシウム剤の使用による薬害の発生は、3年間の試験期間を通じて認められなかった。

3) 果実品質、貯蔵性の向上に対する散布効果は判然としなかった。

[対象範囲]

県内全域(リンゴ「王林」その他ビターピットの発生しやすい品種)

[普及・参考上の留意事項]

1. 本剤の使用は、使用時期を6月下旬から9月下旬まで、散布濃度を1000倍、散布回数を3～5回とする。ただし、前年にビターピットの多発した園では、5回散布する。
2. 本剤は6月下旬以降に使用される一般防除薬剤に混用して散布してよいが、本剤を含めて4種以上の混用散布は避ける。
3. 強樹勢によってビターピットが多発している場合には本剤の散布による対策だけでなく、窒素施肥量の削減や石灰資材の施用、適正着果量の確保など適樹勢への誘導対策をあわせて実施する。

[具体的なデータ等]

試験年 1994年

散布濃度及び回数	散布月日	ヒーターピット発生率
1000倍 3回	5/31、6/15、6/29	0.7%
2000倍 3回	〃	0.3
1000倍 3回	7/19、8/10、8/22	1.1
2000倍 3回	〃	2.4
(無散布)		2.4

展着剤としてアヤ-20を10,000倍で加用
ヒーターピット発生率は10月24日調査

試験年 1995年

散布濃度及び回数	散布月日	ヒーターピット発生率
1000倍 3回	6/13、6/28、7/12	0%
1000倍 3回	7/19、8/ 8、8/25	0
1000倍 6回	6/13、6/28、7/12、7/19、8/ 8、8/25	0
(無散布)		1.7

展着剤としてアヤ-20を5,000倍で加用
ヒーターピット発生率は10月26日調査

試験年 1996年

散布濃度及び回数	散布月日	ヒーターピット発生率
1000倍 3回	5/ 8、5/27、6/ 5	2.2%
1000倍 4回	5/ 8、6/ 5、7/25、8/29	5.5
1000倍 3回	7/25、8/29、9/12	5.4
(無散布)		19.0

展着剤としてアヤ-20を5,000倍で加用
ヒーターピット発生率は10月25日調査

[発表文献等]

なし